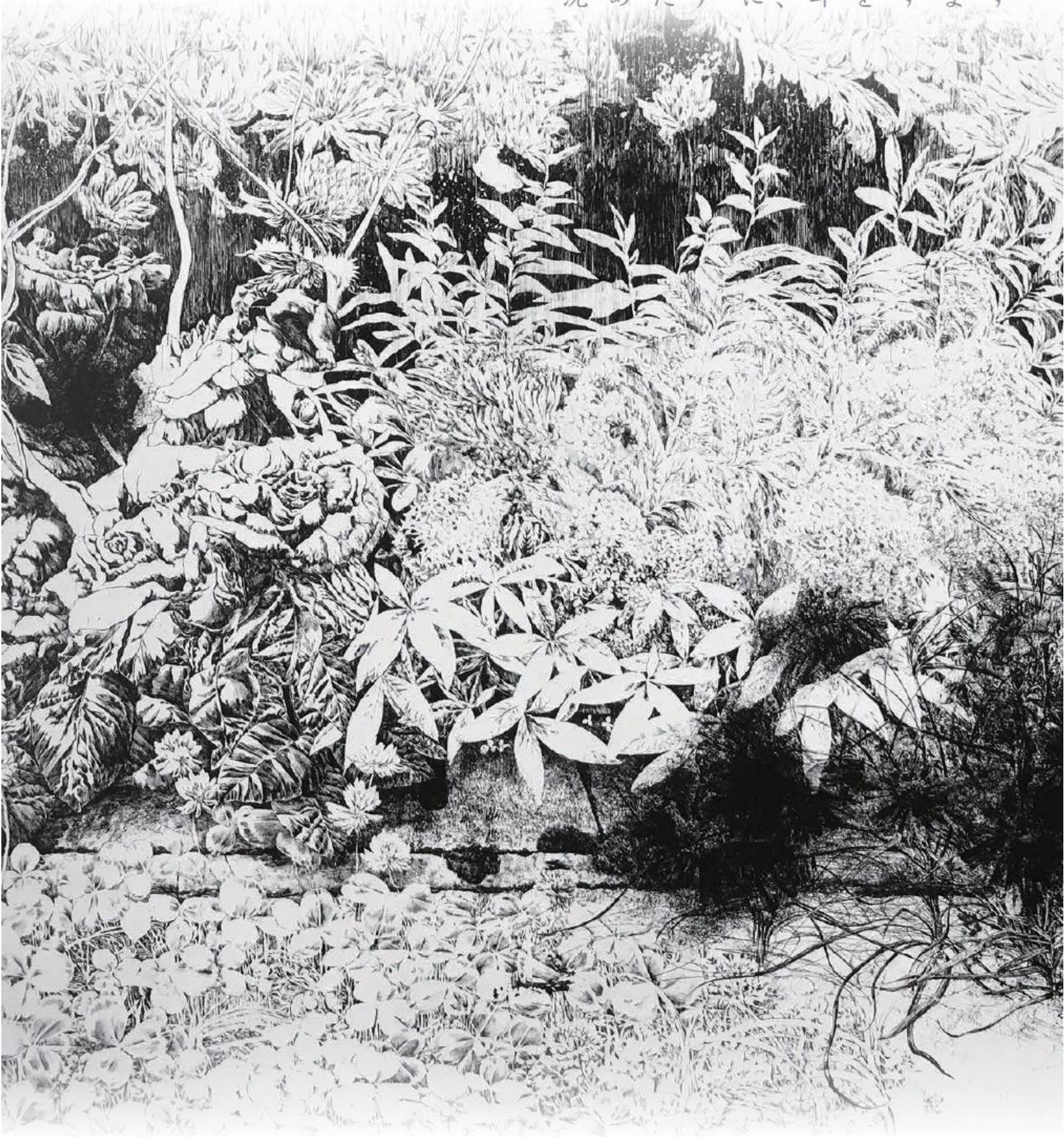


沈めた声に、耳をすます



令和3年度文化芸術普及事業  
新人賞サポートプログラム  
第17回千葉市芸術文化新人賞奨励賞受賞

# 木内あかり個展

2022.2.11 Fri. 11:00~18:00

2.12 Sat. 10:00~18:00

2.13 Sun. 10:00~15:00 | 入場料：無料

会場：千葉市中央区中央 2-5-1 千葉市文化センター 5階 市民サロン

主催・お問い合わせ：(公財)千葉市文化振興財団 043 (221) 2411 | 共催：千葉市 | 後援：千葉市教育委員会

# 木内あかり個展

—沈めた声に、耳をすます—

2022.2.11 Fri. 11:00~18:00

2.12 Sat. 10:00~18:00

2.13 Sun. 10:00~15:00

入場無料

作者は普段、主に銅版画の作品を制作しています。銅版とは、銅の板に直接傷をつけたり腐食させることで凹部をつくった後、そこにインクを詰め紙に刷りとる表現方法です。その板に向き合い制作をしていると、特有の冷たさや重さ、ギラギラと反射する光などを感じます。銅版は作者にとって、力強い物質感を印象づける媒体です。

作品のモチーフには、植物が多く描かれています。作者は日常で見かける植物を「日常の象徴」として捉え「人間の感情の代弁」として描くことで、社会の中の人間の感情の動きや、人が生きることなどを表現しています。描こうとする感情は作品によって様々ですが、日常の中で埋もれてしまうイメージのものを選びます。それは普段声を大にしていう必要はない感情です。その感情の声はとても小さく、故にそれを表現するために作者が描く線も弱々しくなりがちですが、銅版という物質感の強いものに対峙する緊張感や、腐食することで深く「される」描線によって、奥深くに沈んでいた感情が引っ張り上げられるような感覚を覚えるのです。

本展の作品ではそれぞれ、日常の中に沈む人間の感情を表現しています。ご覧になる皆さまそれぞれの日常を思い返し、浸っていただく時間となれば幸いです。



《現し世》2019



《ないものねだり》2018



《父あるいは母、祖父母、偉人、自然、言葉、そして自分。》2018

木内 あかり

1995 千葉県千葉市に生まれる

2018 武蔵野美術大学 修士課程 美術専攻版画コース 入学  
神山財団芸術支援プログラム 奨学生

一般社団法人日本版画協会 第86回版画展 賞候補  
第43回大学版画展 出展

「一粒の米」公募展 Monte dei Fiori 賞

2019 第17回千葉市芸術文化新人賞 奨励賞

ギャラリーメタノイア フランス グループ展 出展

2020 神山財団芸術支援プログラム第6回卒業成果展 出展



【会場】千葉市文化センター5階 市民サロン  
千葉市中央区中央 2-5-1

主催・お問い合わせ：(公財) 千葉市文化振興財団 043 (221) 2411 | 共催：千葉市 | 後援：千葉市教育委員会